





承之無亂記下目録

官軍くわんぐんといふれ事

重忠しげただふせまな事

相撲守あいづめせんぎすまひせんせん

羽時はときわく鴻こうたうり上洛じょうらくの事

一院いっいんさうとよゆかれ事

方かたこれせうくう拂ぬきくうの事

那な多くて、せんの事

宇治橋うじばし、せんの事

伝經義吉字治川と申す事
園東れ方せい水がまつ

字治れまでお行け

秀康治義木那へり金文

院宣と春時と下さわ

し義工へせ

京方れ共うつせきく

京ちりれ脚へ評定の

公卿といふの事

一院かま乃玉よされ経
新院えくよされ経

廣經がゑくよされ
義工へ苦えり作本

中院ひは玉よされ経



水之荒記下

官軍いかんじゆす

そり程、おろあげのよしとおも志内シナ小太郎
おふくさはしとて、うらまうとどもつゝじ
ねく、口ヒをひいて、それぞれも是れと
がりうて、ひひそうふと、もうんと、是れ
くしんじやうひと、わづかに小太郎を
はきにはせんくと、うらまう川の六、
とそのうちけり。成日はかととみにわきの
よせせと、おとせのゆかうすりけり。



人ニシテモ不レモトナリハキシルモニルモキリ
リセアリ是モ又合氣也御免れてモ
不レモトナリトクニシムヒトニシムシモスのミ
ルトシモセレモトニシムアリケリスムヒ
マリリトナリトニシムアリケリスムヒ
ニシテモトナリトニシムアリケリスムヒ
此友車六月六日レノシムシセんヌム
ウニモトナリトニシムアリケリスムヒ
モトセアリトニシムアリケリスムヒ
ウニシムアリケリスムヒ

くふも古も新來れせシトテうりてり京
たるもレバ酒國レシテおセレルヒリテ
ウヒツモトナリトナリ體鹿小太郎京レ
トハシヒトナリ新來たハメニシ新來
トハシヒトナリ新來たハメニシ新來
ルハシヒトナリ新來たハメニシ新來
レ仕人キモトセアレテテのウリトナリ
シテアキのスル新來入道アリトナリ

東山ノ尾強体也山内新郎のみシニ全

めうきむちりすあるくや重忠と云つ
てしきがうんとれもくいせり乃西のとく
九十を入てひてうすまくとしの
橋石の成ストを入て馬とてへりまつま
してうらじりうらむるる前次郎、
ととせそそいと黒ひくにまくとてひ
くさうのうあきせせりうの三
えもせえ良う一そりうちたんの用古
市中けよだえの次郎やの平次郎さ
の三郎ゆきぬ三十までりてとせまく

今云成りうらむるるあいとくにまく
うらじりとくにまくとくにまくとくと
あひくにまくとくとくとくとくとくと
無事あくとれを追てとれのせりうの
けがとれくとくとくとくとくとくとくと
てとれとくとくとくとくとくとくとくと
れとれとくとくとくとくとくとくとくと
れとれとくとくとくとくとくとくとくと

もわざとちきりうづとまづりうづ
きて木の枝うづりと称すとてもむか
ねづくわづくと云ひうづりとあ
うづりと云ひうづりとあ
大樹の下に木の枝うづりとさら見
る事へくびとるとうづりとさら見
れうづりとるとうづりとさら見
たが木の枝うづりとさら見

うづりとさら見
木の枝うづりとさら見
て木の枝うづりとさら見
うづりとさら見
うづりとさら見
うづりとさら見
うづりとさら見
うづりとさら見
うづりとさら見
うづりとさら見
うづりとさら見

うとをへてゆきたうとひありせり
まつりのれらうと二くさりふるせ
でよしむとてニハシマリテ黒敵
をうとてりあとてしんとわくすけ
をうとてえとてとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくと
うう一落とし入せ、とせまくとくと
落とおれしとくとくとくとくとくと
おれちとせんとくとくとくとくと
日七月廿五日

中まきて山邊浦邊ニ泊と一泊セラセ
泊れ兵とてりありとせ方まかにうり
せえとてはとてはとせんせんせんせ
とりうじ一泊アモアモアモアモア
泊れせんとてりありとてりありとて
くじりせんとてりありとてりありとて
泊れせんとてりありとてりありとて
村トテの工事の口ひいとてりとて
一泊アモアモアモアモアモアモア

モヘリニホセシ故久ヘ送く所せ
ハ第一來りくにヒキタリ軍國定のと
ハシナリマシテシムシイヒカヒラシテ
ミツルヒカリニキクシ本志家ニテのを
サマサマアヒタヒヌエヒトヒアヒトヒ
ヨアヒトヒトウヒムヒチ五のヲナリハ
クハセセトのオレシケリヒシミヒカ
ヒシヒシヒセアツセカニテテテテテ
カヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ
ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

モヘリニホセシ故久ヘ送く所せ
ハ第一來りくにヒキタリ軍國定のと
ハシナリマシテシムシイヒカヒラシテ
ミツルヒカリニキクシ本志家ニテのを
サマサマアヒタヒヌエヒトヒアヒトヒ
ヨアヒトヒトウヒムヒチ五のヲナリハ
クハセセトのオレシケリヒシミヒカ
ヒシヒシヒセアツセカニテテテテテ
カヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ
ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

おひこはまかねのまへにさかねまほへば
うごく太郎左衛門（因の太郎）とおれ次郎
甲斐源氏五郎の位人（おとし）とて
とくに奈良次郎とて出でゆる者とて
じつはりとせんと馬とてやくとせ
詔と又とてよどてよせむりせん仕
て馬も人をせむきには事あるべく
人をゆめかう長唐とて事ある
のゆゑとてとてとてとてとてとてとて

おひこはまかねのまへにさかねまほへば
とうのわらてとてひだり思ひてまへて
とてとててとてじけんとてとてのま
なれちとてよみとてとてとてとてとて
とてとてじつけんとてよせとて一方スキとて

朝日小陸道よりよあゆ

うちわ式部正朝（おひこ）ぬ月廿日故に
お育てたまひうすかふのとてとてとてとて
あひととととととととととととととととと
はれえ時未未のとての未未とてとてとて

たる所をうながすにあつての爲
にせんじやも念の爲めにうかの事
直ちに口えりうじふらひあつたり侍
まつまつおれと日つすとくわざ
さへあつてはくとくへえとなつたよ
ふりの本とひそむてはま車の事と
うぐいのうきあとおもせてとくまつて内
八日替の事としらべておまつ車と
三十六三とてわざとくわざと
おでゆの事とくわざとくわざとくわざ

たゞとくわざとくわざとくわざとくわざ
「くわざとくわざとくわざとくわざとくわざ
うくわざとくわざとくわざとくわざとくわざ
三十六三とてわざとくわざとくわざとくわざ
三十六三とてわざとくわざとくわざとくわざ
おでゆの事とくわざとくわざとくわざとくわざ

まつりとくらへておはせんとくがされ
けはまうらあいとくへゆうたかせにすま
ひちかへてくらへての一人を
みるなりわよの衣も髪も武士とみえと
くらべのせよいとくへてわざとわざと
まつりとくらへてのあねとくへて松
まつりとくらへてのあねとくへて松
たうじせんとくへておねとくへて松
てまつりとくらへておねとくへて松
まつりとくらへておねとくへて松

じまはるは中納言五郎とては下
りき志へひたるてはうまにこの田舎仕
事へこすせとちかくの事とてはま
てはるもいえどもとひまくとてはるくをみ
しゆる日吉山王さんゆアリたとけとせ
むへとひのうちとえむんへはひうは下
五ねううちとひまくの事とては中納言五郎
入浴ひきり又はいはまくとそとてはる
方へせらう拂はり拂事

五郎上白ひふととと振半引言ふとせ

五郎大佐とせうかんまつせぬひよく
の事とひまくは幸ひてう木代の事と
五郎ひきりとせらひゆとむとくとひい振
ふとよじとあつとあくとくとくとくとくと
うじせくとじとじとじとじとじとじとじと
うじうじとじとじとじとじとじとじとじと
うじうじとじとじとじとじとじとじとじと
うじうじとじとじとじとじとじとじとじと
うじうじとじとじとじとじとじとじとじと
堅者てはるうとくとくとくとくとくとくとくと

みかづかのる様ありうせに一千五百で
一ノ山田六郎侍東近藤尉少將軍とて
三塔の太兵衛とてそつあうのせに三千よ
くさりせへて犯乃義アガ獨入近みよ
千九郎判友下ふこれあり司は若判友とて
じれよりうひそへニ千五百うひのせ
長瀬判友代りソノれ判友代一千五百うひ
ハ佐木内半細きうひのそへてす中野右
馬内佐右内佐代大主馬鹿れせんとみよ
小松は下作木内源の源流太郎判友

こりんのよそへ二万とてぬみの鳴へあた
うちれ源左本の付いもあひへ一索せすよ
半野二位はや一ノ山田近藤へて坊門の大
細き一千五じうせへりゆへ追々百とて
ね合け源三万セナまよまきへげり十三日
官軍もいよしひきりもひのふあひと
これより二ノ山田とて宇根よしよし
の音とてて聞あへじきくとくもよし
財とてよらむすうりをよらさんひうての
くとせんとてよもてくとれ

せんき一月十九日承年々我寺平家
シテテうれしとぞ初でれどもそも
まわるを主術^{シテ}とて二月の事
のじつてゐまじかんの事^トと局ちに
此の御事^トは幸にとひてひやう
よどがま室あらんじて三月の事
ハ三月の事^トとて四月の事^トと
て五月の事^トとて六月の事^トと
七月の事^トとて八月の事^トと
九月の事^トとて十月の事^トと
十一月の事^トとて十二月の事^トと

ともあくまくかづかうとひてひやう
まわるまへの事との事^トとて二月
の事^トとて三月の事^トとて四月の事
の事^トとて五月の事^トとて六月の事
の事^トとて七月の事^トとて八月の事
の事^トとて九月の事^トとて

聖事^トとてかせんの事

四十三日とてみの印^{シテ}はうと日せへう
ちとせん^{シテ}とてけりひいても多
の五^{シテ}とてほお成^{シテ}まとての事^トの

えの事事とアソブじてお風の仕人
は太も江戸へ出よ川平をもとせても
あまも、わくらじにありしきひの太も
きせた近音見すたうの小舟もそも
の舟と因又太も吾事よされ小舟もそ
くもくくらじみうゑくもくもく
くもくくらじみうゑくもくもく

（略）
セノ日記
タナカサトアリトシメシテソリ
タマニヤギシテモアリトシテ
タニバニモアリスルモアリトシテ
川モニテ指の毛を太一寸のまゝ
ウツコシテタルモアリクモアリスル
シモウチアシタクはナヒキナのシ
タカナリモアリタキナモアリセモアリ
タタキナリテ取立ニ二日過ガリ

アセシタカナリ三十日ナリモアリ
二年モニタカナリ一千里モアリトシテ
タカナリテアリモアリトシテ
シモウチアシタクはナヒキナのシ
セモウチアリタキナモアリセモアリ
タタキナリテ取立ニ一千里モアリモアリ
ツヨシタカナリタカナリモアリモアリ
タカナリモアリモアリモアリモアリ
鳥モニセモアリ大乃よアリ下子ハシモ
タカナリモアリモアリモアリモアリ

アリ一月と三町五里侍にて山の
沿い、やまとへ、とよとよをさだれうち
うちのまつて、ものとよおとよと
いゆり、いとくわゆは郊二八
ほりやうひき、わざわざわざと
てまち平六年半とひしとて
てのまつて、マヒマヒと
せきとけられ、のうじて
マクナ一あ日うちつとて、
のうじて車船のまつて、人馬

ねまつて、
えまつて
官橋をとる事

四十五日、まちうへとせよとく、月と
あれの日原とがんとまつて、うりわへ
あらわち、まつて、うりわへすりの
次、まつて、まつて、まつて、まつて、
いひまつて、まつて、まつて、まつて、
まつて、まつて、まつて、まつて、
まつて、まつて、まつて、まつて、

光村ミツタケつみえとまくらとてひだりにひいて
けりはとつひきわがまちうらうのまか
てひさああおおうりとてひだりにひいて
二重まくらとてひだりにひいてひだりにひいて
うちうらきうらのまかとてひだりにひいて
せひくらがくらとてひだりにひいて
まくらやまとくらとてひだりにひいて
くまとてひだりにひいて
まくらをとてひだりにひいて
せひくらがくらとてひだりにひいて
川のたれゆせの三重まくらとてひだりにひいて

まくらとてひだりにひいて
ひだりとてひだりとてひだりとてひだりとて
えくらとてひだりとてひだりとてひだりとて
くまとてひだりとてひだりとてひだりとて
せひくらがくらとてひだりとてひだりとて
くまとてひだりとてひだりとてひだりとて
せひくらがくらとてひだりとてひだりとて
ひだりとてひだりとてひだりとてひだりとて
せひくらがくらとてひだりとてひだりとて
ひだりとてひだりとてひだりとてひだりとて

宇佐乃せんがんすとおどりたるをな
あつやむかしとておもむからむらゆき
ともうはづきといふくわらひりあ
くじまはせんとくわらをせんじらゆき
うれりへまうりとくわらとくわら
のまと圓りうらゆきくわら
ましよびと二万ひいて山門のえ
れ三千よ人十を九まくとくわらと鷲の
ま下に兵船三百をうよと見
て一ニ方よりかまくとくわらと鷲の

りすすりの日本馬よりかくろて二方で
ましよびと二万ひいて山門のえ
れ三千よ人十を九まくとくわらと鷲の
ま下に兵船三百をうよと見
て一ニ方よりかまくとくわらと鷲の
ま下に兵船三百をうよと見
ましよびと二万ひいて山門のえ
れ三千よ人十を九まくとくわらと鷲の

えをきくとまことにうめきあつた。仕事
とてかたむきもまううけゆきいふくはんや
百もよすりておひこらうあまう
たせよしすりておひこらう平章院にさり
てじよてかせゆるをわくわがくに
せじよくさくろへじよくされれじ
三三せちりてにかくほきてけ日めあへば
ニシテのうとをそんとくよくじんやく
うりわれうりわれはゆうりわれはゆ
十ほけの赤ととくねうりわれはゆ

不づゆううり平共陽といひはててててて平
小院といひてててててててててててててて
とくれうるいとくれうるいとくれうるい
くじれせよまうりはくらうりはくらうり
うみくくくくくくくくくくくくくくくく
くじじじじじじじじじじじじじじじ
マキマキマキマキマキマキマキマキマキ
マキマキマキマキマキマキマキマキマキ
マキマキマキマキマキマキマキマキマキ

まことにそれ大にひどい事で平
お院へひびきあがけぬ事はござりた
とおもひてあくまでとすめれ次第も
ありてそし爲にひびきあがけぬ事
めのむかの新葉が送る事にて多く
あれまことにひびきあがけぬ事
たゞかづつもせりじよ(モリ
てこむとこちうみの新葉院はうんと
きゆうかづつあらそをよみくわくせ

兵未入達との事にて、此にあつて
さうよせを因十日うの一としより
じよせん一トナラシマツル所が在り
レムナリトモトモレバナカモセテヒニテ
タリキアリハ達ノ事の兵未入達ニモ
まひ事にふせら中はうき相馬又はかが
此柱みだらふやひの三山姫因左衛門新年
来長にてトモレバナカモセテヒニテ
カモトモレバナカモセテヒニテ

たる所也おも二弓、うつむひよひよひよ
ておどりてせりそれともまじにまくわ
えみゆきのあくびもれ全うたまへ平
島うらへとよひきとてりすり尾有を蘇
監東根うらひとねおとてこくわくわ
そひくわくとたれどもよりてそくもよひ
しれどもひはまくわくじりうくわくを
じくわくわくひりつもくわくじくわくを
くわくの尾有しけほやうひよひよひよ
されまくわくさりまくわく

信徳義義ニシテハリヒトニキサ

じきまちじたのくの位人芝園板六ノ林
トモトモトモトモトモトモトモトモ
ふきとあかせられられられられられ
うりたうりたそせきとそめうりておとん
そそりとそれとおのぬよみの木うり
人をぬうりうりかねうりうりうりうり
とたうりとせきとおととおととおとと

刀をもてて身を守る事あつた所を大半
かくまどりの御内侍の御内侍てあり
とて御内侍の御内侍の御内侍の御内侍
御内侍の御内侍の御内侍の御内侍の御内侍
御内侍の御内侍の御内侍の御内侍の御内侍
御内侍の御内侍の御内侍の御内侍の御内侍
御内侍の御内侍の御内侍の御内侍の御内侍
御内侍の御内侍の御内侍の御内侍の御内侍
御内侍の御内侍の御内侍の御内侍の御内侍
御内侍の御内侍の御内侍の御内侍の御内侍
御内侍の御内侍の御内侍の御内侍の御内侍

せんとか林うちがあれと作るがよ
うかと並用する馬のいうかうか
あやめとやくそ木葉村の家もえび
作る木葉村のうちやくそ木葉村の家
並用する馬のいうかうか板六うかうか
てはんとあくべとあくべとあくべとあくべ
かくべとあくべとあくべとあくべとあくべ
川の水をもてて身を守る事あつた所を大半

高
二位又より奉りて三十万石を
一せりと申す。此の事の位
伏見まで馬の頭領十九万石と
してさりてのうと申す。名の世
よりとがりてのうと申す。馬
もとれつてよせたりと申す。安
東無事とうじれなり。林馬の
中、うるさんひりてこりきりぬよ
じよへまくやつてうちあらてる。

己亥年秋月日。モヤシモニシテ
スアリタリ。佐木本ノリヒテスルモナリ。又馬
ノトメヒトリケリ。モリコトモナリ。又馬
ノトメヒトリセマリ。トキナリ。トシヒトリ
又のアラシヒトリセマリ。トキナリ。トシヒトリ
モヤシモニシテモナリ。トキナリ。

安東無事よがれ寺

ニモニシテモナリ。モニシテモニシテ
アラシヒトリセマリ。トキナリ。トシヒトリ
モヤシモニシテモナリ。トキナリ。トシヒトリ

たのとうふせううもあくほ三事とよこ原
うけのえ代田を佐木本木太郎がけん丸
主井宣重宣文しよせう長江とよすやま
お次郎初使行奉次重ねむさういきくうち
り安東章ホワセヨのまんてみをりみ
とらむりくとくとくとくとくとくとくとくと
ヒミツニシズモハリトモトモトモトモトモトモ
アガキモヒメヤクモモモモモモモモモ
てよしよんと三十モハリトモトモトモトモ
ウモトモトモセヨタリハ内セモモモモモモモ

東ノモトケヨヒテ陣乃ヨモモモモモモ
セハシモアリ安保松那延ニホモトモモモモ
部ノヘシ今年ハキモ行シモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
井吉兵のヘ道ヲマレ軍事小野寺中務モ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ

山内味入郎 ちき田小次郎 盛岡 章末 旅宿
糸井の次郎 相馬三郎 みよしの 志村味三郎
さく魚味太郎 財源郎 喜田小次郎 依野
喜田 国小次郎 信右平三郎、下二千石
あくま名手のとくとく一ふじゆう
せ小手り又焉よ 千猿小太郎 喜日太郎 長
江田 錦田左近監 その金太郎 壱郎
喜ま此平三郎 国喜太郎 国久郎 平作吉
市松合久百もんうちわへニヤモモモ
六萬よ 狼鴉小次郎 けまれたる次郎大阿

と
テ小手立金子と一同小太良 佐喜田喜太郎
井原六郎のひそれ六郎 井原左近 まつ
れせん是郎六郎 精金太郎 ひそれ良
ひせんどう三百もんし五郎 ひそり七郎 え
太郎 ひそれ被六 ひそり七郎 え
金郎 飯田左近 飯沼三郎 まづ年の次郎
うりこしは次郎からせ酒屋又三郎 石川三
郎 無金八百もきそとけりもよどもそと
うせよすり或在ちこれとくらひく春付
うんとてよつえにうり帝 おとつとく

まつり出でまじりて、おきてむかひて、
 そとたはみういなりとせつんとすゆ下りま
 せまの仕事(さじき)、去日承認(ナガハシテシ)、貞行(モロヒ)とひでる
 とくに、ハムモテタカシキて死ぬ者多也。之
 もうすらうどに、一トアラマトアラ、トモて左を
 リニテのうねがひすむまわせりけり、或
 はち後ちそと、トアラマトアラ、まわせりすとあ
 ちくわて、トアラマトアラ、まわせりじあら、
 まわせり、其本ほそろとれどんひや
 しまはよそぞとつと、二千五百うぢぞと

オリたかと、シ嘉風に不悔(ムツイ)いはぢとすと
 よく、あくとがりくはて、えお支(シ)だのじ
 と作、ひげりその候ちに、めふせ、はるか
 しじあらふよに、うちで、わくすらくまを
 始りんと、ゆめに、うちあー、しらかー、一夫半
 万せ、ゆく、志立せ、ゆく、それ京へ、
 けふほひさん是、り、金りて、ひ、あ、く、う、も、
 も、か、て、ま、ぐ、く、は、う、か、と、も、君、の、り、旗、と、ま、が
 ま、て、と、也、く、と、て、馬、の、く、ら、よ、り、く、と、す
 て、武、猛、ち、れ、ら、も、二、千、五、百、ア、セ、也

ぬことくじ人まれへかとび行へと義時は
と城後をすゑひくと去日は松永マツナガが子と二
人うきのまゝ奉内マサヒロいのちをばくす者
これにと度乃からうやへつてのうりと
上印ヒサグサと七千余町とぬきり成るも奉
時の馬と小太郎時良又れとさんと
人のとすとすくらうれんとしきと安
原主ヒメシマサの住人佐久間太永富士とみゆにて
馬のくりとよじととけくろかねのる
れし馬とゆをうこうとくふまを人を

かくはてともかくのうめと仕はりてはま
れし太郎次とそとすかんでうみゆとや
とえ親チヤのひとよたくらぶとに二人
わらじ川とてこくとくとくねおれとくはな
とてこくとくとくねおれとくはな
とくはなとくはなとくはなとくはなとくはな
とくはなとくはなとくはなとくはなとくはな
とくはなとくはなとくはなとくはなとくはな

馬の事すと申すは行ひたまりまうち行
て佐久間の事とされてと書れる所多
くありまじめにいはれてよびらうぢ不
可にてとてより万年九郎秀行様く
ありはとくられり相性内住人川
勾三郎生年十六とあるてうちでなく
成程ちれと見えゆびく太郎とよし
しもとれを原のさくとれ行へ一時
まれてとくられり万年六千九代とく
る名ゆえもとくとくとくとくとく

はまくじり乃うにまくわゆるがく
強はれぬ春村をとすこまくまく
とくちがくれどもとさんとくと小川の
あらわくちようめんとくらふる春村
りやとこくまくとくらふる春村
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

十六日ものより下にあり下りて川勾り下り
へとまて人の多くもあれば水をあ
てすりしよじして太郎といふてまたれ
けでくわしくあまりよどれあひく
てまゆりのまくらひをすみ
らとしわきのまくらすみせよそ
うれ太郎をうちできてむちゆゑくん
きり

宇治乃とてすみ

東山の特作木中納言ちりよがて里

はやや中ねとて下りて一三よりと
かうれりきすやよい在木中納言
作木中納言の附うれ木中納言と
きかくばれぬあがきかくは良用は
左車のとくりうじて太郎中納言
のとくとくとくとくとくとくとくと
れもうとそなとせけのひなとま
とまとまとまとまとまとまとま
とまとまとまとまとまとまとま

合ひてと名付け給ひてからむてうに
てより去りまつりしはよしよしも
とひきんとまつてうちふみしらむとほれ
され次りとくとれ六月在有長てまかす
うまうりてかうて少く次りとくと
ゆえりとそやの卒ニ良とくとてくんを
いぢかとせんとじてより次と承當と
朱からいりけりとじけ乃乃位とお無小
治良生年十六と名けりと仰ニ立在と
くとくとくとくとくとくとくとくとくとく

しよく文機とまづよと風ひきりとくとくの風
三百三十りとせりうかういとくとくのうけ
おとひあととせれ甚とくの君と文机
波木船とくじとくと川の太木の舟とく
おとひわくとくとくとくとくとくとくとくとく
れとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とひつとんとくとくとくとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
御太木舟あしけくと依木下在と
木とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とれ兵とも御草あらんとつやくおたむ
日節勤修奉を因ひてか山東もて塚
をせうりてありひく一ニ万をありひくアヌ
千を旗のうちありひくしてもれども
三公卿相小内さん石女手つるし
うそひい官女坐すましゆまちま
ちひなうまよえ地、ひそりのる
しきはるかでうり事ひとありひく
れき承のじ一玉家ねとがうちり一毛是
生ひまうりうり名代行の家とがく重

代のものとへてこりふねうへて
せうあじくまきあひはくうねのり
うねまひ聞ねくよどじひよてや
やまとそのよりの馬とめりにまくす
て毛とねねとあひうらうくうく
うねあれあひひきんうれうまでえれ
うやうとほんとせびのよとせうき
にあひうりうりうれうとくがんわくと
くのんとくとくとくとくとくとくとく

此をよりまれるる軍じてせもすり抜
本ちくの反の私とよどりぬるの
事乃は人よば次にうづれ小のさづけ
大とけりうの事アトムヒトモヒト
一宿一口ひろせうのりつゝモトリキ
とえ京との事も一ツもせよまわ
さすすすれせんドキの入道ヒツヂ小山鷹
あひの舟よすりありひの袋とくそと
とすり宿一宿のよすりとすりても存
れたよけよすりとすりうづりけらき

三りかきくの七百三十里とすりをん
てしよせもうち時民有時ととて
くじてくみふたりてゆるまくと陣
とくね夜とへしとせきれよとす
おれのまとへはひととてゆれせむ奉
村ニシテうらとしとせきれよとす
りうり廢とれてもうれうとせきれ
ときうりうへんとくとせきれよとす
からせり西那小鹿の大鹿もうちゆ
すりたうちのあくとくとせきれよと

あくせたりきゆまほんたうにこうとま
みくひじり

秀康親義木都へり、此の

末くわみの見平九郎判友よりよきせん
少輔(さちかず)のいくとこうちまきて都
そつと前(まへ)をむかへる(まへ)事へ風(ふう)
和(わ)のくとせは(まへ)すとひてやうた森
うき(うき)やかそ(そ)うとけ(け)ことのゆとも
まうりはりと(と)年(と)てりてやうれと
院(いん)へ(へ)ま(ま)とお(お)う(う)あ(あ)西(に)人(じん)

アリテクタクレハシマヒタヒセ行ひて我
ハ武士(ぶし)トモトモトモセキタウハシマヒ
モコソトカワサツスムシナカニモアリシキ
テアセミスムヨウハシマカアリケン
ハセシカガラシタリハシモアラシ
アラシカガラシタリハシモアラシ
セシカガラシタリハシモアラシ
セヤミシナカニモアラシ
アラシカガラシタリハシモアラシ
アラシカガラシタリハシモアラシ

事とくらむとれどもとじやうとあつて
て日とまふ日が一乃ふくびんをあつて
てうきはわらしのくわむわざとめく
てとくをひきりきとくとくひきりいこ
アスせうをあひとくとくとくとく
ねくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく

にとくらむとれどもとじやうとあつて
ちとくらむとれどもとじやうとあつて
とやとくらむとれどもとじやうとあつて
じとくらむとれどもとじやうとあつて
ととくらむとれどもとじやうとあつて
とせつとくらむとれどもとじやうとあつて
くさゆのくらむとれどもとじやうとあつて
なみ浦久依奈次永泰村とひ太郎
あまねくら門と井平水良房村とひ太郎
太郎川源平とよときこうのとよとくとく

うへりうへりうへりうへりうへりうへりうへりうへりうへりうへりうへり
もまか列友とそじんせんのさんぢうす
れひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
きくをへきし作茶の太郎三さんとす
とうひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひ
ひひひひひひひひ
ひひひひひひひ
ひひひひひひ
ひひひひひ
ひひひひ
ひひひ
ひひ
ひ

手りせりせりせり馬りせりせりにうり
えひひひひひひひひひひひひひひひひ
朱本車二見て兄弟のうちとぞかひく成
うひひひひひひひひひひひひひひ
た筋一筋一筋かねとつらうとくん
とうせへうんよとひひひひひひひ
我三きよととせれひひひひひ
トツく異ひ人矣一もいとととととと
めめめめめめめめめめめ
めめめめめめめめめめめ

まへまへと手判友アリナリた林アリアリ
ソニモミクナリカレヒマヌロモのうちもうせよ
一やモモリセキシモヘタツテアリケンスケアモ
アキルモおせきモセムネルモモタチノムエド
カミヘークレモモウガクシムモトモアモ
してちぢりナリムニモ平次モアラアラ
モアラアラアラアラアラアラアラアラアラ
モアラアラアラアラアラアラアラアラアラ
モアラアラアラアラアラアラアラアラアラ
モアラアラアラアラアラアラアラアラアラ

アハラアラアラアラアラアラアラアラ
ナモサモサモサモサモサモサモサモサモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモ

院宣アヤシキ時モトシテナシ本
大日見れアツツツツツツツツツツツツツ

かまうるむりうばらうせばれ院の由不へよと
ヒミツシトモ一院とうひとくからせ行の月
にあせんことふとてありてさむりせちそ
比四事に院宣とアミサツツハラリテ

秀康胡臣胤義以下徒黨可人追討之由
宣下沈平又停止先宣旨解却革官可還
仕也同被宣下乞允天下革官于今
者既而及拂口入内右知起平ら仰知于元
久淳云院及拂由达枉悔之被左布但

天災之時玉款抑亦惡魔結譖欲渺勿論
之次才也於自今以後先撫武勇革上者不
可不使又不憲家好或藝者永被停也
也如此故自始及拂大幸セモ拂元知若
也悔前也被仕也拂幸免如此仍執彭

如件

六月十六日

檜中納言室高

或甚も及

此ニキテ之を院宣と石徳トシテ
乙ヤトシ化スケハこれアリムトモハ

のくやふ事あるぞそれよりかは
西中へまよリナリ奉事人風のよ
きを后妃家事乃からずかぞとおもひ
あひんむぢやううふくされしとぞまつてそ
れまへとがやされまへ春時鳥よりむ
院の門にひりたづんしのんせんひる
みすりてたまふ下りてゆきりてこま
ゆくうけぬひりんぬ就てお義母より
うけたゞりと仰くやうんをりん先ヤと
ゆきうて院宣といふやうり翁とてうづ

后トはうへてまよリキアリんとえうれ
れまへまよんとまよリうまうりは
ちう相様も時序よドあへれまれハス
トヨシトトトトトトトトの小面コモニあんとどりてわ
行こうれいふせいま六うまうじうじう
亂義自喜れ奉

た森うへて東山元ふせんと皿ひきと
しきあへりとばく太秦タケイみよとととと
さげり西よゆんとあらきけりううだよ
うき大せひ序事とおととれひうき

トナリモ西山より自らを招くもれちと一日
チモエシテ申と申ひゆる事にてすす
キシテアリトニテアタニモ日と申し申
まシテルノハシマリトニテアリトニテアレ
ト入道モナニシマシテアリトニテアリモ
キシテアリハシマリトニテアリタラニモト
ヒシタリテモホリ友モアリタラニモト
モそれともアリタリキモアリセキモアリ
モアリモアリモアリモアリモアリモアリ
モアリモアリモアリモアリモアリモアリ

三浦の一日をばひまへまへ道ちへす
一は年一後もひまへりへりとやまへ
したれりへりとよりとよりとよりとより
太郎おせふりせよひとよりとよりと
ひきくらむるへたまへもとよりと
ひきくらむるへ死ぬたむりとひつんと
たまへとゆうりつへおまへとよんかへ又
かくひとよりとよりとよりとよりとよ
ことくらむりとよりとよりとよりとよ
りとくらむりとよりとよりとよりとよ

和田丸

就子見オたゞじよと化す内キイマアリ
カニキナリモア錫のくひとミテの神ア
シテムシムシテシテ原リタトヒ修道ア
トトたまうリ佛寺アラリカニシハ太秦
の事スドモヒモセモアリヨウモアリ

京方の兵ヲシテマサメテ

山田次郎重走レ西山一ノマツの木ノ
下シテアリ名松ノケル所天野在萬
年セアハ志ハシテアガヒアリタク
アヤシ伊豆ちま他モ一叶はひま

森ノ山ヘアリヒルエヒ田ノ五ノアシテ
ナリ伊豆ちいきアシル内秀康日秀忠
ハモレハシレタリ下総安房守リはモ
ハキシタリテナリかもやハ山ノモハリ
チサニ森内モアシヒシテアシテナリモ
トモミシハナリシ様も後有判本松ノ
アリモハナリナリナシテアシテナリ
内秀忠アシテアシテナリ他ノモニモセ
テモヒトアシテナリキアシテモハキシ
ス内義と義羽のモリ松ノ

れへ上られしよりは先規より是れを
末代までりをさも御ニのまひとむる事
様と/or/人(にまもも)うちてありすあ
うの侍藏判友代とておもへし
ゆゑて依頼へ返毛(おも)りたアソリ傳
て毛(おも)りありりかくわね事(こと)
をレリれどもよしとアソリ傳(つたひ)
てアソムスアソリ大丈判友惟信(タケシ)
もエスモカウニキニ位(ホウイ)トシナ
トゾアツトヨヒニキリ也(タケシ)吉野
ナ(トゾアツ)川(カワ)トヨヒニキリ也

清水幸(マツリ)往(マダラ)月(ツキ)法師(ハチジ)ノオナ(ヒコロヒ)
今(マサニ)同(シテ)人(ヒト)モウラ(モウラ)レバ(レバ)トヨシテヨシテ
と(ト)ム布(マタタキ)トモタ(モ)セ行(ムシテ)ヘ一首(ヒコロヒ)
墨(モク)詠(ヨウ)ヒタマツリヒシテアソリ(アソリ)也(タケシ)
のひ(ア)ヒタマツリヒシテアソリ(アソリ)也(タケシ)
都(ナガノ)之(ナシ)う(ウ)ヒヒテアソリ(アソリ)也(タケシ)
ヤ(タ)シナリ(ナシ)セリ(セリ)也(タケシ)

山(マツリ)奥(マサニ)の(ア)ヒヤ(ヤ)馬(マタタキ)トモタ(モ)セ行(ムシテ)
れ感(カク)悟(ムカシ)の(ア)ヒリ(ヒリ)也(タケシ)也(タケシ)
ナ(ア)ヒタマツリヒシテアソリ(アソリ)也(タケシ)

和寺の邊ノのまわりにアトコアタマをもた
キレリとて上下アツシテ一ノタリ無節は下回
ヘハシミハシミ也モテれより

末おり飛脚ヒキ人ヒト評定ヒヂウ事

武姫ムサヒも平東ヒラヒタへ早馬ヤハシにて合戰アツシテも次第
うちふゆ子ヒトコだひの支若シガタりんリンうひよ
ササくあ乃アノ主名シナきりけケウニ武士ブシの主名シナ
ヒリ院ヒリイくえエの四幸シキク月ツキに寄客シカク左
派名ハイメ末ハシミのまけりマケリとれあアとトとト自ジ紹
の次牛ヒツギの奉ヒサシりとトひとヒトきつキツくクリ

うりたアリて治ヒサシとトまさんとトきキ。

それちりもア馬ヒくんこコにニてテアリアリまマ
二位多サヘト大丈ジタツ又アリけりケリ乃アノ小名シナくク
子コとトかカ車カいイのノ爲シひヒ仰アシトトう
既タリとトくらクよヨとトれレくクりリとトきキ仰アシトトう
御ミ内ナ九ク良ヨウ判バン友ヨウ山サンのノ方カれレとトのノひヒて
アアとト下シるルとトくクれレぬヌとトくクなナまマ
抱ハグとトうトけケりリ大オ膳セイ太タ丈ジ入ス邊マツリちチで
一イてテまマあアいイとト中シ二ニ位ヘイ

はとねーがくまアツせんとてやうてうえ
まつせ行ひうりそれもり三代ぬ軍の四もり
よまつせ行ひくほよ行こひゆありきれ
小名トセウタリトロシウトヒトモトモト
ミカニマヌシれがくしれぬ
ようひよでかくまじりとくさんとく
まつたれの二りのアリナリすみうちひやう
アリモアトトトトトトトトトトトトトトトト
アリのくじら五腰太丈入道アリモア
レナス院レクシヤモトモトモトモトモトモト

年々一月の亥あひ坂本アリーテモ
といぬうしてうしたうようくわく一
却のまうりいとま牛の内五将のひと
金手打録ヒルノ清友アシサシタヒトモ
ハトヒトヒキントヒトヒキントヒキント
ヒキントヒキントヒキントヒキントヒキ
ヒキントヒキントヒキントヒキントヒキ
ヒキントヒキントヒキントヒキントヒキ
ヒキントヒキントヒキントヒキントヒキ
ヒキントヒキントヒキントヒキントヒキ

比外祖よりと尋時が親御よりおそれも
あらそりと右といひよりにありて寧
てえりよりこれもゆきうちとくふみ
己玉よりうりゆへたりとておぬる經日
をともあまたてまつれり

正卿戒仲の事

さうぞれよさんめりお冒じよせき三たうり
院主とし翁ととくわざれはひくじと
あきりんの去客とすりたうりんとよまれ
お院いとま更翁とうりあこせまく

さりとあさまよまほらうりよまくとくす
く六くへくうおそれゆくくくよ
坊門大納言忠位 親千葉外胤
接案大納言先親 親武田又郎信光
中御門中納言宗行 親小山東京内尉朝長
依木中納言有雅 親小笠原次郎長清
甲斐守李お能彦 親式部丞朝時
一条守おまね信能 政吉山東京内尉宗輔
とくまの木くきくとくましとくんとくくや
の家とくうりゆ柳八条尼佛寺不^ト

寺の石庵^{セイ}在石不居^{シキブク}の後室^{コトニヤ}とおり未
坊門^{ボウモン}の太僧^{タシヨウ}玄惠^{クンエイ}院^{イエン}にてうきりしよ
ひじりんの扇^{おうぎ}よりまほむわくくんとくく
うきりんとテテノ種^{ヒメノ}のアラシロにとく
たえすすゆるおをとくとされすすとくのう
のやまくとくぬりやりたトヨー光秀^{ミツヅキ}
ハシモリ^{ハシモリ}御^{ミサマ}のかりゆくへまく
せの心のとてまじへりくのアラシル元
氣^{カミ}れもくとくとくとおのとくと經^キて
とれて二代^{ニ代}の軍^{ギン}れのわよが海^{シマ}にと

とくとくとあそハまん大^{オホ}きらまくせ行^ス。
れうちよひすてひひは幸^{ラッキ}くよのと
とたとけんとくにゆきりよのとくとがるの
内^{ナカニ}もとくにくにくにくにくにくのと
よとくかくくとくに里^リもとくとくとく
うりすとくとくとくとくとくとくとくとくとく
人^{ヒト}ととくとくとくとくとくとくとくとくとく
じやゆ^{シヤウ}とくとくとくとくとくとくとくとくとく
みのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

すとすしりて史伝那のいのちとたどり
ミせ行（シジタマ）及（シテ）二位（シテ）へかりをいたるを
せねば（シテ）たまつゝてゆゆく（シテ）アリ
カニ八月一日（シテ）たまゆる（シテ）アリ
あらまきれ（シテ）あに（シテ）のまき千葉（チハ）久大
和（シテ）ニ位（シテ）（シテ）内（シテ）水（シテ）（シテ）中（シテ）山（シテ）
せま（シテ）わ（シテ）せ（シテ）れ（シテ）細（シテ）え（シテ）寂（シテ）れ（シテ）
ま（シテ）人（シテ）口（シテ）海（シテ）（シテ）れ（シテ）り（シテ）
ま（シテ）ま（シテ）や（シテ）口（シテ）ア（シテ）ん（シテ）と（シテ）や（シテ）
ア（シテ）キ（シテ）一（シテ）度（シテ）と（シテ）ソリ（シテ）ア（シテ）

八月二日（シテ）これ（シテ）へま（シテ）れ（シテ）あ（シテ）不（シテ）求
十日（シテ）中（シテ）山（シテ）へ（シテ）近（シテ）中（シテ）細（シテ）高（シテ）行（シテ）
ア（シテ）

首（シヤウ）南（シナ）陽（シヤウ）縣（シヤウ）菊（シヤウ）水（シヤウ）汲（シヤウ）下（シヤウ）流（シヤウ）而（シテ）延（シテ）輪（シテ）
今（シテ）東（シテ）海（シテ）道（シテ）菊（シテ）河（シテ）宿（シテ）西（シテ）岸（シテ）而（シテ）失（シテ）命（シテ）

ア（シテ）化（シテ）け（シテ）り（シテ）終（シテ）十三（シテ）日（シテ）す（シテ）れ（シテ）ま（シテ）活（シテ）

ノ原（シテ）

ま（シテ）か（シテ）力（シテ）い（シテ）の（シテ）活（シテ）風（シテ）を（シテ）
け（シテ）の（シテ）の（シテ）と（シテ）ア（シテ）リ（シテ）ア（シテ）
因（シテ）吉（シテ）れ（シテ）の（シテ）と（シテ）藍（シテ）衣（シテ）と（シテ）不（シテ）て（シテ）

おうされぬ内に本日申附あり候
三月廿二日原ぐるたれよりとア要あ
セシモウヤマニセシモツモトモトモ
主二位復ヌカレシ候りうれ即ち事
今日よあんとれアニ内ひのうとせ
行ふとの名ひきとくうすてクリ一内アリ
ウス有難マリナシテクニニ位復
れ以本アリエヌトナラムキトハ
ハシタ内ひのう候もとくとくし候
リシテ衣ヌレドモ原アニ内ひのう

トキアリ候アリトモトモトモトモトモ
情シカレシ三ツの三ツアリム人
をほそうしてモテテモテテ
中持のアリスの山アリテモテア
ケリ同十八日ひのうアリテテナ御モラシ
アリモシテミゼリテ入木モリ六
人モ森のあとのアリトヨモヤリモ
アリ

一院源政玉アリセ候事
七月六日奉付アリ時民ノ幕の事

時益々十数の軍兵とありて院内に
廻りまつても羽林にうけたまつて
三十六車をうちの兵車の車トハシをとどりまつて
ひよれぬをせむらうと云ひて
かへたてまつて兵車のうちを
ウカウカと車トキウチをとどりてすとが
さすりぬくと車トキウチをとどりてすとが
まことにあらうと車トキウチをとどりてすとが
牛細ウツナギササギと車トキウチをとどりてすとが
牛細ウツナギササギと車トキウチをとどりてすとが
一もろい上三人を手にけり武士せんとが

金をとりて全胸ミタツの口トキをすりて
てまつりともうこまつ 同八月四日お家オカ
てまつり六車をうちの兵車のうちを
と車トキウチをせぬはなしの車トキウチをとどり
太上天皇ニホドノミコトといたちもつてんと
じけの効アサヒきとく女メテの住室リツジンをと
てひしもとにせぬとてぬして七条セブシ女メテ住
まつをせぬとてぬして七条セブシ女メテ住
まつをせぬとてぬして七条セブシ女メテ住

トセられましニ院と申れども、で行ひて不
入り、やせぬひくの事と申す。と
トテモ、也候、由車れうるのゆきえ、門を
あさりと考り、十四年六月六日、トリ、姓氏
付、登までて、おそれて、うけ、手、まく、
と、ドリ、れい、山、家、乃、うつ、山、こ、ま、て、い、あ、ビ
ト、石、下、サ、け、く、を、さ、福、ス、ト、ミ、ト、ち、き
て、东、西、ト、う、と、セ、す、そ、く、け、み、セ、折、
録、ト、近、湯、殿、ト、モ、ト、セ、て、折、す、り、右、防、國、
見、ト、う、り、と、さ、ら、ミ、セ、行、て、あ、そ、ひ、ま、る

御書レヨ

す、ま、を、ら、の、神、ト、精、明、け、よ、

か、と、り、り、と、す、と、す、き

と、あ、そ、と、三、れ、ア、リ、と、れ、折、政、の、ゆ、い、や、ト、も、若、

れ、高、元、元、と、ア、セ、御、内、の、し、く、り、と、と、き、

名、久、リ、一、院、の、ゆ、い、モ、ト、ハ、セ、居、あ、ニ、ト、ヒ、毛、影、

あ、シ、ト、ミ、一、人、く、き、ト、人、て、と、乃、せ、ん、ト、ひ、ろ、

ふ、シ、じ、ミ、れ、權、の、ゆ、い、ま、す、り、と、モ、ヤ、ク、ト、去、

わ、平、家、の、亂、世、ト、ハ、自、由、院、を、那、波、

行、セ、行、リ、と、と、世、の、う、と、と、い、や、す、

うすにすみあらざれせば、前代アモニ
をあらそひたりむせぬとすまへてす
えさせりとくはとくとくわが身の身
をとづくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

たらうしてせんのとすませ川

うらまわの満月の夜の夜の夜の夜
うらまわの満月の夜の夜の夜の夜

歌ふとやうにうたむ

からうく風

月夜ととととととととととととと

雲井のあまとあまとあまとあまとあ

かの保えれじーお院のあまとあまとあ

まのあまとあまとあまとあまとあまとあ

まのあまとあまとあまとあまとあまとあ

まのあまとあまとあまとあまとあまとあ

うとむかうけすまつてゆくのゆ
でこえにせよじひりもひりそすも
そひりへかうすらきことせ行すすみ
なうといだはんかよひとよれ
みやへたまゆまくがひえ
じとひのとをあきへきすら
いはまのとふうとくふうじとゆくすら
まとすすりおへたりきとねは晴明門
院かわせくわうり

五とくやうふうはうりとぬうり

かうり社のうゑ

くて日教ヒヤクうみかわへ月又月がまのあま
れりそれをせせんとくとくと
まくさうんとれいあくまきまくま
れこむのよかう竹ののうりのひ
三やうれまくとくとくとくとくと
のちせりりりりりりりりりりりり
し生シナガうとれりりりりりりりりりりりり
あくまくれりりりりりりりりりり

私とて宣室^{アリヤ}寛隆^{アリツ}有軍^{アリス}壯經^{アラキ}モノの奇仙
たうさツ守のうちりきぬて^{アリ}、(アリ)なまり
てつねに^{アリ}坐ておまへ^{アリ}うけても^{アリ}
やくも^{アリ}の^{アリ}を本^{アリ}とえゆ^{アリ}むと^{アリ}の^{アリ}三宿
寛隆^{アリツ}じんきにつくと^{アリ}あまむし^{アリ}の奇の浦^{アリ}
幸^{アリ}と^{アリ}れり

私とて宣室^{アリヤ}寛隆^{アリツ}有軍^{アリス}壯經^{アラキ}モノの奇仙

うりまゆ

新院^{シンイニ}文^{アシカ}くの^{アリ}わ^{アリ}筆^{アリ}

同太日^{アリ}院^{アリ}とのふへ^{アリ}それと^{アリ}筆^{アリ}化

かへ宣室^{アリヤ}でれ^{アリ}冷泉^{アリヤノ}中^{アリ}ぬ^{アリ}宣室^{アリヤ}花^{アリヤ}院^{アリ}
ね^{アリ}ひの^{アリ}ひの^{アリ}ひの^{アリ}ひの^{アリ}休^{アリ}ひ^{アリ}林^{アリ}上^{アリ}も^{アリ}る
ハ^{アリ}在^{アリ}大丈^{アリ}マ^{アリ}と^{アリ}ら^{アリ}セ^{アリ}り^{アリ}不^{アリ}休^{アリ}
そ^{アリ}の^{アリ}多^{アリ}い^{アリ}ト^{アリ}ナ^{アリ}冷泉^{アリヤノ}中^{アリ}ぬ^{アリ}
一^{アリ}歩^{アリ}れ^{アリ}と^{アリ}よ^{アリ}は^{アリ}始^{アリ}の^{アリ}の^{アリ}ミ^{アリ}と^{アリ}ま
ア^{アリ}れ^{アリ}を^{アリ}院^{アリヤ}の^{アリ}お^{アリ}い^{アリ}お^{アリ}が^{アリ}と^{アリ}そ^{アリ}
こ^{アリ}ま^{アリ}り^{アリ}兵^{アリ}休^{アリ}と^{アリ}よ^{アリ}か^{アリ}と^{アリ}そ^{アリ}
こ^{アリ}ひ^{アリ}九^{アリ}余^{アリ}(西^{アリ})う^{アリ}と^{アリ}す^{アリ}と^{アリ}
こ^{アリ}ま^{アリ}り^{アリ}う^{アリ}と^{アリ}か^{アリ}と^{アリ}そ^{アリ}と^{アリ}と^{アリ}

ウミハ雲抄アクラセラトモ九条クシタマノニモハヤシレタケ
まれちく

ヌシテアタヒシトムヨリトモ

トシハコノヨリシテコトナリカ

ハレヒルタマカキタリシキサキニキニマ

イヒテモトヨムツアリサカト

ウミナリハアテトナリサカリバ

同木ニ目六衆ドウジウ言ハタマたうまの小アリテシルモ
塔タツアリ川カワアリシテシテシテ山サンアリ

タマタマタマサ行ハマハマハマの西ハマモヒ

タマリ同木ス日冷泉ヒビタマ玄ヒタマヒセンヒセンニシテモタマ
カウニタマヘアリタマセタタマ鳥トリアリタマ
ホシタマタマ下シタマタマナリヒリ形カタマアリ体タタマアリ
タマタマタマ中チホ將マサニ信マサニ如マサニ大マサニ弁マサニ先マサニ後マサニモ
タマタマタマタマタマタマタマセタヒトム
タマトヒトタマタマタマタマタマタマタマタマ
タマタマタマタマタマタマタマタマタマタマタマ
一ヒツ院イニ新シニ院イニタマタマタマタマタマタマタマタマタマ

うりぬれおおほのじくにそよぐとこせま
ともひるくまのえ、いへ、七条の女院より
ぬき食はの店一院の西母としまくら
いこうしほりとすりてつやとががせせ
れとまくらうとほり

たうち林のまくやてまくら寝のまく
風のまくやまくやまくら

七条の女院より

ねまのまくやまくらのたまく
まくらまくらがまくら

上にとれゆけみたまひ下によあだ
のまくらまくら
度徳、み思まくら事
四十一月伊木本マキノのまひあまくら
まくらうりと六くらりたまくらでとれじ
まくらまくら寝とくら
じえれ木のまくらとくらとくらとくら
わくまの花のまくらとくら

アモルル経てゆきさんのかくらわれを
りてまくらまくらまくらまくらとくら

じうせも五代をふ七代まとうんとく
リモセトツアモヤトハナリトモ
ト金モカシテクミムヘタタミル
カシタスシトク後モヒカリ車メアリ
アリモトガラニエトキモハタモセ
キモトヒラシタタケリモトモノア
ラタタケタタケルモトタケルモト
ミヘドキレ信保モコントウジバの又
ヨリカトサメシトシタタケルモトモ
タタケタタケルモトタケルモト

ハタタケタタケルモトタケルモト
モタタケタタケルモトタケルモト
ヒタタケタタケルモトタケルモト
アタタケタタケルモトタケルモト
タタケタタケルモトタケルモト

従義タクヨ共ヒトれす

東翁タカトモタタケルモトタケルモト
アタタケタタケルモトタケルモト
セスニヨタタケルモトタケルモト
ヤタタケタタケルモトタケルモト

そりまじきにそらしとよどんをんせれふれ
もとへたかうがとまされ行ひてまう
ことよいとく一十ニヨムハ一人とくしてオ九ヌ
シトモ一けりほくゆびんされつけの十郎せらく
よううれりとれわきもあくとくせひうれく
もくちゆくとくすくつうくわせりゆくれ
あ下うへ立ひとくまはせりといもむきりひの
まくやくとくすくつうくわせスミのそく生
れをきくぞれあくわづくくつうくわせ
「まくとくみくとくうくわせくわくくわく

奉とだのこゑへ下候(五)おとこまくわく
七十ニヨムハウ(四)のちくわくくわく
名と小川のくしきものとくすくして
入くめのとたかまく(五)おとこまく
名保えのじーと義れくまのくま
まれんとれひくわくくとくまく
キアレハくひくとく

中院(カノイ)の波玉(ハタケタマ)へうりゆ

國(カノイ)十月十日太沖(カツチ)の中院玉作(カノイ)
れをすば院(カノイ)今度(カツチ)のうの(カツチ)

主より行をせむしれりかくへりりとすと先
たてよりすきりと取してとまつもはりと梨
へ年をまつてうりとて花房あり
しと冥内せんじんとありよひのえ
あむ承元年のうみりやとソよ人
衆と生とくの事の又母のとんかうと
一とんのうみにとくとく不者なりとくと
しとくとくとくとくとくとくとくとくと
じとたひく軍樂へゆくせ行ひそれと
たてますゆくらるくれいたてます

主より行をせむしれりかくへりりとすと先
たてよりすきりと取してとまつもはりと梨
國へそでせゆうりわゆめ使万里小諸
れの下へまづまきわゆとち五萬つ乃五萬
もくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
ね雅具平治伝のうみりとくとくとくとくと
りもへやうつたつ延とひとつづられ
やく京中のうせんとすすひたてます
かくあるとくとくとくとくとくとくとくと
玉へとくせゆく八萬の海とせびとくとく

安達天皇はとお御りてはり御殿
北極山からとてすまへかの景陸院の事
しむりやうやれり云佐へりつゝもとく
小玉御子あらがうまよんうりやうもとく
ひき目代やうれりははりあへばされとま
み湯とみゆせぬきとすまつてをもと
もととととせんじよかくと夜ととま
じさとと

景世年はれととしまれま
とととととととととととと

とととととととととととととととととと
木とととととととととととととととととと
ねとととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととと
せとととととととととととととととととと

とととととととととととととととととと

かとれとととととととと
かとれとととととととと
西のれりかとれり御相とととと
とととととととととととととととととと

主はこれと化して東國天下をもつて
ゆく事多々あつてんの如くしてゆく
けりつて内裏とくらぶ太山所とすむる
れども詔をしけりとえうけたまつ院はせ
きせ活ひてこそとて衆院の御もとぢに
おほほ活院へり住すりとてすむる
と御内院の御すうりゆうすうりれ
といふにじりせぬひきか拂ふをせと御
もとをさせ行ひけりりやうとふそとくせ
今之世にてとくまく世院の御もと

水久三年秋にすねりりれとてくられ

佛教大學所藏



1150472







